

アセアン NCAP 会合とアセアン自動車安全フォーラムへの出席報告について
(平成27年9月20日～22日@インドネシア・バンドン)

1. スケジュール

- 20日(日) ①アセアン NCAP テクニカルコミッティミーティング・
アセアン NCAP ステアリングコミッティミーティング
21日(月) ②アセアン自動車安全フォーラム
22日(火) //

2. JNCAP 関係の出席者

自動車アセスメント評価検討会座長 宇治橋貞幸 特任教授
日本自動車研究所 安全研究部 鴻巣敦宏 主任研究員
自動車事故対策機構 自動車アセスメント部 山下菜穂子 スタッフ

3. 主な出席者

- ・アセアン NCAP、Global NCAP、ブルネイ政府、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ベトナム関係機関 (①、②)
- ・自動車メーカー (トヨタ、ホンダ、スズキ、ダイハツ、日産、三菱、いすゞ、プロトン他)、自動車部品等関係メーカー (ボッシュ、TRW、ヒューマネテックス、共和電業、ボッシュ、オートリブ他)、大学関係者 (バンドン工科大学 (インドネシア) 他)、メディア関係者 等 (②)

4. 概要

アセアン NCAP との連携/情報収集ならびに JNCAP のプレゼンス強化を念頭に、アセアン NCAP の要請に応じて、アセアン NCAP のテクニカルミーティングならびにステアリングコミッティーに出席するとともに、同時に開催された MIROS が事務局として主催しメーカー等の自動車関係者を集めたアセアン自動車安全フォーラムに出席した。

今回の参加の背景として、アセアンでは日本の自動車メーカーが市場の9割近くを占めることもあり、JNCAP で行っている取り組みの最新状況をプレゼンするよう MIROS より依頼があった。今回、自動車アセスメント評価検討会の宇治橋座長がプレゼンを行った。

① ASEAN NCAP テクニカルミーティング・ステアリングコミッティー (於: Grand Royal Panghegar Hotel)

テクニカルミーティングはアセアン NCAP に関する技術的な事項を中心に情報交換や意見交換を行って、アセアン NCAP に係る様々な方向性の提案を行う場であり、メンバーには、MIROS (マレーシア研究機関) の技術者を中心として、Global NCAP の他、日本からは JARI がアドバイザーとして入っている。

また、ステアリングコミッティーはアセアン NCAP の決定機関であり、テクニカルミ

ーティングの報告や提案を了承し、今後の活動などの方向性などについて議論を行う。会議には、マレーシア関係者（MIROS、AAM、MAI 等）、Global NCAP、アセアン各国の関係者が参加する。なお、今回 MIROS の Professor Wong 氏が参加できなかったため、Global NCAP の David Ward 氏が議長を務めた。

JNCAP はいずれもオブザーバーとしての参加であるが、会議では情報提供として日本の交通事故死者数の報告をしたほか、各国機関に「予防安全性能評価」・「衝突安全性能評価」（英文）のパンフレットを配布した。

（会議概要）

- ・アセアン NCAP では 2013 年以來これまでに 49 車種の試験を実施してきており、2015 年末までに新車の 50 パーセントをカバーする予定。2020 年までには 100 車種の試験を実施したい。
- ・アセアン地域ではチャイルドシートの価格が手ごろになってきており、NCAP では今後チャイルドシートのアセスメントに力を入れたい。
- ・これまでの試験結果は、大人の乗員保護 (AOP) では 5★が 17 車種、4★が 23 車種、3★が 4 車種、2★が 1 車種、1★が 3 車種、0★が 1 車種。モデルチェンジで星の数や点数が向上している車種も見られる。子供の乗員保護 (COP) では 5★が 1 車種、4★が 24 車種、3★が 9 車種、2★が 13 車種、1★が 1 車種（0★はなし）。なお、大人と子供の乗員保護において、これまでの最高得点車種は日産・ティアナで、最低得点車種は KIA・Picanto であった。
- ・試験実施機関は MIROS の衝突試験場が最も多かったが、JARI や KATRI での実施もあった。また、スケジュールの関係でメーカーの衝突試験場で試験を実施しことがあったが、4 人の検査官立ち合いのもと行った（パンフレットにもその旨を記載する）。ただし、なるべくメーカーで試験を行うことは避けたいとのこと。
- ・これまでの試験結果において 5★および 4★で最も安い車種とその価格を、各国で調べてエクセルにまとめ、翌日のフォーラムで言及する。ちなみに、マレーシアの場合 5★で最も安い車種はプロトン・IRIZ、4★はプロトン・AXIA。
- ・今回、試験結果パンフレットは英語版と開催国インドネシア語版で作成。今後も開催国の言語で発行していく予定。
- ・アセアン NCAP Q3 の結果について説明がなされ、結果の承認がなされた。最も成績のよかった車種はトヨタ・ハイラックス（ESC 付で 5★）。その他はトヨタ、ダイハツ、ダットサンなど。
- ・選定方法や試験実施機関に関する規定、その他プロトコルの更新について説明があった。ホームページからダウンロードできるようにするとのこと。
- ・メーカーが良い成績しか宣伝しないことから、これまでの Dual rating を廃止し、Single rating とする。
- ・最新の交通事故死者数等の状況について各国から簡単な報告がなされた。
- ・次回のフォーラムは、2016 年 5 月にベトナム・ホーチミンでの開催を予定。
- ・2017-2020 までのアセアン NCAP ロードマップが資料を基に示された。

【ASEAN NCAP ロードマップ(2017-2020)の主な点】

- 大人の乗員保護で SCA を普及させる配点を導入予定（導入にあたっては、Euro NCAP や JNCAP のプロトコルを勉強したい）。
- 子供の乗員保護では、P ダミーを Q ダミーに変更。
- CRS については装着取付け易さも評価の対象としたい。
- Safety Assist の試験も導入し、ABS、ESC、ABS、シートベルトリマインダー、ブラインドスポットテクノロジーなどを導入予定。



② アセアン自動車安全フォーラム AASF2015（於：バンドン工科大学）

フォーラムには、NCAP 会合出席者の他、自動車メーカー等の関係者や学識経験者ならびに2015年アセアンNCAPのグランプリアワードの表彰に合わせたメディア関係者も参加。MIROSによると、本フォーラムは毎年各国（2013年クチン、2014年バンコク）で開催するが、これは開催地の有識者にアセアンNCAPの活動へ積極的に参加してもらうこと、またメディアに取り上げてもらうことで開催国内での認知度を向上させることを目的としているとのことであった。

フォーラムではアセアン各国の有識者やNCAP機関から様々な研究成果の発表や各国NCAPについてのプレゼンがなされ、日本からは宇治橋座長がJNCAPを代表して、日本の交通事故における現状・目標、JNCAPの特徴・効果、予防安全性能アセスメントに関する最新の取組状況などについて20分のプレゼンを行った。

なお、MIROSのブースに「予防安全性能評価（英語）」100部と「衝突安全性能評価（詳細版・英語）」50部を置かせてもらったところ、すべて配布することができ、アセアン地域でのJNCAPの広報に役立ったと思われる。



